

閃火の軌跡

たるく先生

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

本来は迷いながら、時には逃げながら絆を紡ぐことで前に進んだ少年にもう一人の師がいて、一足早く前に進んでいたら。これは一人の少年の一足早い絆を紡ぐ軌跡……になるというなあ

目次

始まる前の軌跡

1

始まる前の軌跡

俺、リイン・シユバルツァーは修行の仕上げとして俺に八葉一刀流を授けてくれたユン老師とは違う、もう一人の師とも言うべし人と立ち合っていた。そしてそれも終わりが近づき、

「はあああああ！終の太刀・暁!!」

俺は今放てる最高の技を放つ。

それに合わせて師匠も俺の知る限り一番強力な技を放ってきた。

「飛——流、——頭——!」

互いの技がぶつかり合い、拮抗するかに見えた瞬間、俺の方が打ち負け吹き飛ばされた。

「グッ!」

地面に叩きつけられるが、なんとか受け身をとりその反動で体を起き上がらせるが、目の前に刃が突きつけられた。俺の敗けだ。

「……までだな」

「はい、ありがとうございます。でもまさか一方的に打ち負けるとは思いませんでしたし

た。流石は師匠です」

立ち会いが終了となり、お互いに得物をしまい礼をする。老師から学んだことを自分なりに全部出せたと思うが、最後の打ち合いの結果を考えると自信がなくなってくる。

「俺は師匠じゃないって言ってるだろ。ユン老師に頼まれて稽古つけてやっただけだからな」

そう言つて師匠呼びを否定してくるが、俺の中でこの人はやはり師匠なのだ。扱う流派は違ふし、特に技を伝授されたわけでもない。それでもこの人は俺の師匠だ。なりによ

り、
「師匠のお陰で俺はあの力を使いこなせることが出来るようになりました。そして壁を乗り越えることができ、老師から奥伝を授かることが出来たんです」

そう、あの力に怯え初めは老師から初伝で修行を打ち切られた俺だったが、師匠から稽古をつけてもらい老師から教わっていた天然自然の理。そして俺を愛し慈しんでくれた両親に妹のエリゼ。俺が想い、俺を想ってくれる人たちに気付いたとき、あの力…… 神気合一を使うことが出来るようになった。

師匠は、『俺が与えたのはきつかけだ。お前ならいざれただり着いたき』と言つてくれるが、正直自信はない。自分で自分の歪みを理解がしつつも、それに目をつむり、背をむけていた俺が気付くには容易なことじゃない。下手をするときつかけがなければ一

生気付かないかもしれない。

こうして前進むことができた俺は、老師に修行を再開してもらい、つい先日奥伝を授かった。最も授けた当の老師はすぐに旅に出てしまったが。

そして修行の一区切りとして師匠と立ち合っていたのだ。

「お前に足りないのは経験だ。身体能力や、八葉の技の冴えなんかは俺から見たら十分に奥伝として合格だ。だが、それを活かすだけの下地がお前にはない」

経験が足りない？ どういうことか気になった俺は聞いてみた。

「経験が足りないというのはどういうことですか？」

「そのままだ。戦闘経験はとにかく、人生経験はお前はまだまだだ。人は様々な経験を経て成長していく。ある程度事情があつたとはいえ、ほとんどこの郷の中でしか経験がないお前はまだ人として未熟だ。戦闘経験だつてユン老師や俺を抜かしたら魔獣くらいしか相手してないだろ？」

なるほど。確かに戦闘経験は老師と師匠、そして修行として連れられたアイゼンガルド連峰の魔獣くらいしかない。修行の成果を見せる為に父さんと打ち合ったり、エリゼに稽古を付けたことはあるがそれは除外だろう。それにほとんどユミルから出たこともない俺の人生経験なんてあちこち旅して回っている老師と師匠と比べられもしない。

そう考えていたところに師匠から声がかかった。

「たしか来年の四月からツールズ士官学院に入る予定なんだろう？そこで色々なことをしっかり経験してこい。そうすればもっとお前は上に来れる。今お前に言えるのはこれくらいしかないな」

「まだ入試も始まってませんが……そうですね、わがままを言つて入るんです。自分を高める為にしっかり学んできたいと思えます」

そう言つて来年からの入試と来年からの学院生活（予定）への決意を新たにしていると、師匠が腕を組み考え込んでいた。そして何か思い付いたような顔をする時、

「今三月だからまだ丸一年あるわけか。おいリイン、お前帝国を一周してこい」と衝撃発言をした。

「は？」

いきなりかけられた言葉に反応出来ず、間の抜けた顔と声を晒した。

この思い付きのような師匠の言葉が始まりで俺が様々な絆を紡ぐことになるのは、この時には全く思いもしなかったのである。